

平成26年度 学校評価実施報告書

(別添様式3)

3 2回目評価

学校名(静原小学校)

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						自己評価		学校関係者評価	
・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理						評価日	平成27年2月26日	評価日	平成27年3月9日
						評価者・組織	学校評価委員会	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果		分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学校 評議員による改善 に向けた支援策
1	確かな学力	主体的に考え、表現し、伝え合える能力の育成 読書の習慣化 家庭学習の習慣化	自覚的実行力の意識化を図り、主体的な学びの構築する・個の見取りの 100冊読書の定着 朝読書の確実な実施 学校だよりによる啓発活動 家庭学習の仕方の提示	児童の話す・聞く態度の変容・児童の学習意欲の変容 読書に対する意識・意欲の変容・読書冊数・移動図書館等貸し出し状況 家庭学習の習慣化の変容	児童は、勉強が分かったと回答・ねばり強く学習できていないと回答 読書100冊は、80%以上達成。昨年度より全体数は増加している 児童は、家庭学習をしているが、保護者から見た習慣化の実現度は低い	⇒	・課題課題を見つけ、問題解決の意識をもって学習していくことが不十分である ・読書したことをきろくにつけていくことが定着した ・考えを発表することについて意見交流も含めて活発にしている ・家庭学習は、出来ていないとの回答が3分の1ほどある。	⇒	・授業の中で問題解決していくことの面白さを味あわせ、授業外でも探究し続ける児童の育成を旨とした指導をすすめる。 ・基礎・基本の定着に向けた取組の共通理解と児童の探究心を伸ばす取組の共通理解をすすめて、全校体制で進める。
2	豊かな心	望ましい言葉づかいや挨拶の徹底 やらなければならないことへの意欲 協働活動を通じた豊かな心の育成	いろいろな場面での発信と地域ぐるみの取組 ボランティア活動の実践 自覚的実行力の実践奨励 ・人権の木の取組～行動 ・保護者・地域との体験	子どもが進んで挨拶をすること・丁寧な言葉づかいをすること 家の仕事の手伝いをすること ・人を大切にすること ・きまりや約束を守ること	あいさつの実現度は高い。言葉遣いの実現度は低い 家の仕事の児童の実現度は低い 「できている」児童の割合は高い。大人からの評価は、高くない	⇒	・言葉づかいや挨拶などの実現度は児童に比べて、大人から見た実現度は低い。 ・なかまの日の講話を聴き、みんなで人権の木を育ていく取組が進んでいる。なかま通信を毎月発行できた。 ・自らボランティア活動をする場面は増えた。家での仕事の実現度は低い。	⇒	・言葉づかいについては、見逃さない指導を徹底する。校内での共通行動をする。 ・自覚的実行力の実現場面の紹介を進める。個の見取りの充実をはかる。 ・ボランティア活動、体験活動への積極的な参加を勧める。
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立等健康な生活を作り出そうとすること 体力の向上	早寝・早起き・朝ごはん・歯磨きの呼びかけ 学校保健委員会開催 ・遊びやスポーツを通じた運動の習慣化 ・運動交流に向けた取組	早寝・早起き・朝ごはん・歯磨きなどできていますか ・元氣よく運動したり遊んだりしていますか・交流会への参加状況及び体力テストの結果	実現度は、高い・早寝の実現度は低い。学校保健委員会への保護者の参加が増加 ・運動をする実現度は高い ・校外のスポーツ活動に向けて練習頻度は高くなっている	⇒	・早寝・早起きから考えて、睡眠時間の確保が気になる ・みんなで元気に体を動かすことを楽しみにして児童が進めようとするようになった	⇒	・保健室だよりだけでなく、早寝・早起き・朝ごはんについて学級通信等でも積極的にトピックとして取り上げる。 ・楽しく体を動かす活動が確実に進むように学校全体で児童を見取り声かけをする。
4	独自の取組	安全で学習しやすい環境であること 休日や長期休業中の学習や体験活動	・教職員、PTA、地域と共にする環境整備 ・見守り活動 ・学校を使つての様々な取組の実施 休日や長期休業日にほとんど体験活動を設定している	・学習しやすい環境であること ・学校が安全であること 休日や長期休業日に学習や体験活動を行うこと	・取組の充実、回数も多く人的環境協力体制が確立している ・教室や校地には限りがあり、広くならないが、整備している 地域の重要な行事や興味深いと感じた活動への参加率は高い。	⇒	・学習環境、安全については整備されたり地域協力を得られたりできている。 ・休日や長期休業中の体験活動は、必要性のあるものや興味深いものについては参加率が高くなる。	⇒	・学習環境や安全については点検をしっかりと、気づいたことにはすぐに対応していきたい。 ・より良い学習に向けて、地域の方々の協力はありがたい。うまく協力していただけるように計画的に進める。
								⇒	・寝る時刻・起きる時刻の調査をして、睡眠時間を確かめ、一日を精力的に過ごせるように導くのがよい。朝からすっきりとして登校できるように働きかけていただきたい。 ・地域行事や休業中の体験活動など学校通信やホームページで取り上げていただいていることで地域の協力体制に影響を与えることができる。発信されていることを楽しみにしている。

4 総括・次年度の課題

- ・確かな学力の定着に向け、自覚的実行を意識して、主体的に取り組む姿勢が多くなってきた。主体的に読書に取り組み、100冊を超える児童が昨年より大きく増加した。学校体制で進めると学力向上に向けて効果的に進むので、さらなる取組の充実を図り、教員の発問の仕方や授業構成等の改善を図っていく。
- ・児童や家庭の実態を踏まえて、休日や長期休業中の体験活動のよりよい計画の見直を図っていく。
- ・学校評価を通じ、保護者や地域の方に本校の教育活動について、理解を深めていただくことができた。
- ・学校評価の視点にあった評価項目になっているか、次年度に向けて点検していくことが必要。